

淀川水系における事業中ダムの論点

ダム名および諸元	主たる目的(4830河川管理者資料より)	論点(効果・代替案など)
<p style="text-align: center;">丹生ダム</p> <p>ダム:ロックフィルダム 高さ:145m 容量:1億5千万m³ 集水面積:93km²</p>	<p>①治水:姉川・高時川の洪水調節(ダム地点計画高水流量910m³/sのうち720m³/sの洪水調節) ②流水の正常な機能の維持:1)姉川・高時川1.8m³/s 2)渇水対策容量40500千m³ ③利水:大阪府2.474m³/s・京都府0.2m³/s 阪神水道企業団0.556m³/s</p>	<p>①高時川の基本高水は過大ではないか。姉川・高時川の河道整備(堤防補強、河床掘削、河道内樹木等の伐採など)により、ダムによる流量調節効果を代替できるのではないか。さらに大規模の洪水に対しては流域対応を充実することにより壊滅的な被害は回避できるのではないか。 ②1)の姉川・高時川の瀬切れは、農業用水の取水との調整をすることにより、軽減をはかることができるのではないか。2)の琵琶湖の水位低下を抑制するための渇水容量4500千m³は瀬田川洗堰の操作により代替できるのではないか。 ③利水については、度重なる要請にもかかわらず、いまだ精査・確認の結果が示されていない。したがって、ダムの目的として新規利水はないとして、ダムの建設の是非の検討から排除せざるを得ない。</p>
<p style="text-align: center;">大戸川ダム</p> <p>ダム:重力式コンクリートダム 高さ:92.5m 容量:3360万m³ 集水面積:153.5m²</p>	<p>①治水:ダム地点計画高水流量1250m³/sのうち1000m³/sの洪水調節 ②流水の正常な機能の維持:大戸川2.22m³/s ③利水:大阪府0.4m³/s 京都府0.1m³/s 大津市0.0116m³/s ④発電:関西電力最大出力3000KW</p>	<p>①大戸川の基本高水は過大ではないか。宇治川・淀川における洪水被害軽減への効果はきわめて限定的ではないか。大戸川の河道整備(堤防補強、河床掘削、河道内樹木等の伐採など)によりダムの流量調節効果を代替できるのではないか。さらに大規模の洪水に対しては流域対応を充実することにより壊滅的な被害は回避できるのではないか。 ②維持流量はダムが建設された場合の付随的效果であり、ダム建設の是非の検討での対象ではない。大戸川ダムによる琵琶湖の水位低下抑制は瀬田川洗堰の操作によって代替できるのではないか。また、異常渇水時の緊急水の補給効果はきわめて限定的ではないか。 ③利水については、度重なる要請にもかかわらず、いまだ精査・確認の結果が示されていない。したがって、ダムの目的として新規利水はないとして、ダムの建設の是非の検討から排除せざるを得ない。 ④発電はダムが建設された場合の付随的效果であり、建設の是非の検討では対象ではない。</p>
<p style="text-align: center;">天ヶ瀬ダム再開発</p> <p>トンネル:長さ約600m 入口直径約12m 出口直径約26m</p>	<p>①治水:1)淀川・宇治川の洪水調節 ダム地点計画高水流量2300m³/sのうち1100m³/sの洪水調節 2)琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減 瀬田川洗堰1500m³/sの放流能力確保 ②利水:京都府0.6m³/s ③発電:関西電力 最大出力 天ヶ瀬発電所92000KW 喜撰山発電所466000KW ④環境:琵琶湖の環境の改善</p>	<p>天ヶ瀬ダム再開発は、瀬田川洗堰の放流能力の増大・鹿跳峡谷の流下能力の増大・天ヶ瀬ダムの放流能力の増大・宇治川塔の島地区の流下能力の増大という一連区間の事業の一つであるが、とくに鹿跳峡谷および塔の島地区については歴史的景観の保全に配慮する必要がある。 本事業は治水・利水・発電機能を強化するだけでなく、生態系を重視した琵琶湖水位の操作につながるものとして、事業の必要性が認められるが、さらに次の事項への綿密な検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一連区間における放流能力・流下能力の増大量・増大方法 ・鹿跳バイパストンネルの代替案として瀬田川洗堰および鹿跳峡谷入口の河床掘削の可能性 ・塔の島地区の河床掘削をしない場合の流下能力の増大方法ならびに流下能力の検証
<p style="text-align: center;">川上ダム</p> <p>ダム:重力式コンクリートダム 高さ:91m 容量:3300万m³ 集水面積:54.7km²</p>	<p>①治水:ダム地点計画高水流量1100m³/sのうち950m³/sの洪水調節 ②流水の正常な機能の維持:維持流量0.5m³/s(ダム地点) ③利水:三重県0.6m³/s 奈良県0.3m³/s 西宮市0.211m³/s ④発電:三重県最大出力1200KW</p>	<p>岩倉峡上流の上野地区の浸水被害対策では、まず岩倉峡の流下能力の精査・確認をしなければならない。 ①治水については、上野遊水地の遊水機能の増大、河道整備(堤防補強、河床掘削など)、代替案の併用などにより、既往最大洪水が再度発生しても被害を回避できるのではないか。さらに大規模の洪水に対しては流域対応を充実することにより壊滅的な被害は回避できるのではないか。一般道路や農道を2線堤3線堤として活用して氾濫水の制御をはかるなどにより、治水の安全度を向上させることも検討する必要がある。 ②維持流量はダムが建設された場合の付随的效果であり、建設の是非の検討での対象ではない。 ③利水については、度重なる要請にもかかわらず、いまだ精査・確認の結果が示されていない。したがって、ダムの目的として新規利水はないとして、ダムの建設の是非の検討から排除せざるを得ない。 ④発電はダムが建設された場合の付随的效果であり、建設の是非の検討では対象ではない。</p>
<p style="text-align: center;">余野川ダム</p> <p>ダム:重力式コンクリートダム 高さ:79m 容量:1760万m³ 集水面積:27.8km²</p>	<p>①治水:ダム地点計画高水流量280m³/sのうち270m³/sの洪水調節 ②流水の正常な機能の維持:余野川0.475m³/s ③利水:箕面市0.116m³/s 阪神水道企業団1.042m³/s</p>	<p>①一庫ダムの利水容量を余野川ダムに振替えて治水機能を増大しても、銀橋狭窄部上流の多田地区の浸水被害の軽減にはきわめて限定的な効果しかない。利水容量の振替も余野川ダム以外で代替できるのではないか。余野川ダムの集水面積が小さく、猪名川下流の治水への効果もきわめて限定的であり、ダムによる流量調節効果は堤防補強などの河道整備などにより十分代替できるのではないか。 ②維持流量はダムが建設された場合の付随的效果であり、建設の是非の検討での対象ではない。 ③利水については、度重なる要請にもかかわらず、いまだ精査・確認の結果が示されていない。したがって、ダムの目的として新規利水はないとして、ダムの建設の是非の検討から排除せざるを得ない。</p>